

自由と平和に光ともして

テロ犠牲者追悼集会

ワシントン
広場

同時多発テロ1周年の追悼と平和を訴える集会が10日夕から11日朝にかけて、ニューヨーク市ワシントンスクエアで開催され、テロ犠牲者の遺族団体やアラブ系米国人団体など約50の平和団体が集まり犠牲者に祈りをささげた。

同日時半から各団体の代表や平和活動家らによるスピーチが行われた。反戦のメッセージには、会場からは賛同の拍手が沸いた。アラブ系米国人団体の人権運動家、モニカ・トラグリーさんは、パレスチナやイスラエルのNGO「民間防衛団体」とパレスチナに滞在した経験を語り、「ニューヨーク

にクラウンド・ゼロが出たとき、人々は悲しみを覚えている。しかし、争いが絶えないパレスチナには、クラウンド・ゼロが響く所にある」と語った。

夜になると、参加者が一斉にろうそくに火をともし、スピーチが終わっても、公園内では各団体が平和への祈念を続けた。日本ボウリングチームのメンバーも、折紙約8000羽をキャッチャーに並べて、ツインタワーやジョン・レノンゆかりの「イマジン・モザイク」を模した作品を会場に設置し、国境を越えた平和を表現した。キャンドルサーベスは、夜通し続いた。



8000羽の折り鶴で作られた「イマジン・モザイク」の前でろうそくをともすNY市民ら（10日午後11時、ワシントン広場で）（写真・石川 諭）